



No. 7

命や身をどうしたり守ることができるとか、次にどんな行動をとればいいのかを冷静に考えることが大事だと改めて思うことができた。三つ目は、普通の日常の中にこそ幸せがあるのだということだ。地震の揺れによつて、校舎の屋上にある貯水タンクが壊れてしまい、現在は校舎内の水を自由に使うことができていない。トイレの水を流すことができないので、仮設トイレを使わないといけない。体育館が避難所になつていたので、体育館で遊ぶことができない。校庭の三分二は私達の避難場所や、避難しておられる方々の駐車場として確保してあり、残りの三分の一でしか遊ぶことができない。長休けいは、車の出入りが多いので教室で過ごすといけない。いつもの給食を食べることができない。家に帰つたら外に出て友達と遊ぶことができない。いつ余震が来るのかと毎日を不安になりながら過ごすといけない。など、いろいろなことがまでの日常と比べて、不便に感じる事が多

No. 8

い、今まで普通だかと思いつながら、あるいは思いもせずに過ごしていたことが、今になってみてとても幸せだと思えてくる。当り前だと思つていたことが、急にできなくなると、今まで自分は幸せな毎日を送っていたんだと気づかせてくれることができる。これから時間がたつて前のような日常に戻つたときも、今回のことを思い出して、今自分は幸せに生活できているのだなと思わないといけないと感じた。

四つ目は、前向きに考えるということだ。鳥取県中部地震で多くの家が壊れたり、物が壊れたりした。倉吉市の観光スポットである自壁土蔵群も、壁がはがれ落ち、無残な姿になつていた。八幡町にある八幡神社は、鳥居倒れ、すっかり元の姿と変わってしまった。校庭が地震割れたり、物が壊れたりした。明倫小学校のすぐ近くにあるしゅう油工場にシクラでは、壁がはがれたり、機械が壊れたり、

No. 7

すぐ大きな被害が来た。今、鳥取県では、多くの人がとても悲しんでいる。でも他の県などからブルーシートを分けてもらつたり、食料を無料で提供してもらつたりしている。近くの県からは、少しでも被災者の力になろうとボランティアとして来てくださる方々がいる。このように、いろいろな人が私達のことを支えてくださっている。悲しんではかりいられないので、早く今までのすてきな鳥取県に、そして倉吉市に戻ろうと、前向きに考えることが大切だと私は思つた。このように地震は、私達にとつて大きな不安、悲しみ、考え方がいろいろあることを教えてくれた。災害はいつ起こるか分からない。だから、いつ起きてもいいように準備をし、あかなければならない。たとえ、どんなに最悪の事態になつたとしても、復興するための希望の光は、ま、こある。だから誰もが少しづつ自分にできることを見つけて、みんなが協力し合い、助け合うことができれば、いつものように戻

No. 8

るはずである。だから希望を捨てずに、私達は頑張つていきたいと思う。もしかしたら、今もずっと余震が続いている。もしかしたら、また大きな地震がくるかもしれない。でもその時には、今回学んだことが生かされるだろう。そんな時は、パニックにならずに冷静に考えられる力を使いたいと思う。いつも給食に戻つたら、食べ物のありがたみを感じながら食べたいと思う。普通の生活が送られることに幸せを感じながら生きていきたいと思う。そして、何事も前向きに考え前進していきたい。地震から学んだ四つのことは、これからの人生の中で忘れずに過ごしていきたいと思う。鳥取県中部地震、これは私にとって大切なことを教えてくれるものだ。私は、この経験をもつと忘れることはないだろう。

平成二十八年十月二十八日